

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生94-19 TEL 0948-42-7578		
自己評価作成日	令和05年05月25日	評価結果確定日	令和05年09月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者第一」を常に念頭におき、日常生活の支援を行っています。地域やご家族との交流を大切にしながら、「けやきに入居して良かった」と思っていたけるように日々施設全体で業務に取り組んでいます。また、家庭的な雰囲気を持続していきながら、生活の中でご自身の残存機能を活かしていく認知症の進行の予防を図っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年08月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公共施設が集中する利便性の良い嘉麻市の中心に位置し、19年前に開設した定員18人のグループホームである。「入居者第一」を理念に掲げ、ホームの中で利用者が安心して穏やかに暮らせるように、家庭的な環境の中で、利用者一人ひとりの個性や生活習慣を大切に、利用者の尊厳を守る暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族が希望されるそれのかけつけ医やホーム提携医、訪問看護師と連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制を整え、毎年のように看取り支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、面会や地域交流、外出、外食レクの再開を検討している。畑で収穫したトマトやピーマン、茄子、ゴーヤ等を使って、職員が愛情込めて手作りの美味しい料理の提供や歌や季節毎の作品の制作、スイカ割り、周辺の散歩等、利用者の毎日が生きがいのある生活になる様に、管理者を中心に職員がチーム介護で力を合わせて頑張っている「グループホーム けやき」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者第一」を基本理念とし、尊厳ある対応を心がけています。	ホームが目指す介護理念「家庭的な環境の中で、尊厳のある暮らしの支援を利用者本位に行う」を掲げ、見やすい場所に掲示している。新型コロナウイルス対策の為唱和は控えているが、職員一人ひとりが自覚して理念の共有に努め、「けやきを選んで良かった」と心から思ってもらえるグループホームを目指し、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流が難しい状況でしたが5類に引き下げられたことで、少しずつ地域との関わり合いを持ちたいと思っています。	コロナ対策以前は、利用者と職員が町内の行事に参加したり、婦人会の方たちの盆踊りの交流も盛んであった。地域の方やボランティア、家族参加でホームの行事を盛り上げていた。小学生のホーム見学や中高生の体験学習の受け入れも行っていたが、現在は自粛している。新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行されたので、地域交流の再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協などで行われている勉強会や地域での交流会には状況に応じて参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行っており、様々な意見、情報の共有を行いサービスの向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、ヒヤリハット、事故等を報告し、参加委員からは、質問や意見、要望、情報提供などを受けていたが、コロナ禍の中で書面での報告を行っていた。新型コロナ「5類」移行後は対面式の会議を再開し、会議の中で出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会のお知らせにはできるだけ参加しケアの向上につながるよう新しい情報を教えて頂いている。	地域包括支援センター主催の会議や研修会に参加し、情報交換を行い、行政と協力関係を築いている。管理者は、行政担当窓口にも、ホームの空き状況や事故等を報告し、介護の疑問点や困難事例について相談し、アドバイスを受け連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに身体拘束廃止委員会を行い、施設での身体拘束廃止に向けての取り組みなどの話し合いや年に3回行う勉強会を行っています。身体拘束についての知識を活かし、実践に繋がるように努力しています。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、2ヶ月毎(奇数月)に身体拘束廃止委員会による勉強会を実施して、禁止行為の具体的な事例を検証し、日頃の介護サービスの振り返りを行っている。特に、言葉遣いに配慮して、日常業務の中でも気になる所は職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を今年度より設置し、6ヶ月ごとに委員会を行う予定です。日常における、虐待にあたる事柄、また基本的な知識をつけるために年に3回の勉強会を行い、尊厳ある対応を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を理解し、成年後見制度について定期的に研修や勉強会にて理解を深めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、定期的に勉強会を実施して制度の内容の理解に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には利用者や家族に説明し、関係機関に相談しながら、制度を活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明、納得、理解頂くよう確認している。 不明な点はいつでも質問を受ける旨もお伝えしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、また電話にてご意見、ご要望を確認している。内容は職員に伝達し、情報共有できるようにしている。また、運営推進会議等で出された意見も出来ることは反映し運営している。	職員は、ホームの中の日常会話から、利用者の意見や要望を聴き取るようにしている。現在は、予約して短時間の家族面会を実施し、無理な場合は電話で意見や要望を聴き取り、出された意見を検討しホーム運営や日常介護に反映させている。写真をたくさん載せた「けやき便り」を3ヶ月毎に送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じてユニットごとの会議、2ヶ月ごとの合同会議を行い、各自の意見や提案と取り入れている。 実践しながら評価も行っている。	職員会議は、カンファレンスの他に、ホーム運営や業務について意見や提案が出され、管理者は、職員の意見に耳を傾け、出来るだけ業務改善に反映させている。2ヶ月毎の合同会議に加え、必要に応じてユニット会議を開催し、職員の意見や要望、提案について話し合う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やり甲斐のある楽しい職場になるように努力している。 また、定期的に個人面談を行い、職員のメンタル的な面も把握し解決できるようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては差別しない。 本人のやる気を大切に新人には一からの教育を行い、勉強会にて知識をつけて頂いている。 また、入社時には身体拘束、虐待防止についての説明、個人情報保護、認知症についての理解を得る様にしている。	職員の特技(手芸、園芸、歌、料理、レクリエーション)や能力を活かして、楽しく働くことのできる職場づくりに取り組み、外部研修の受講や資格取得を奨励し、介護の知識と技術の向上に努めている。職員の休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や勤務体制、希望休に配慮し、リフレッシュしながら働ける職場環境に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習に参加するようにしている。コロナの影響で研修に参加が難しかったが、施設内での勉強会を検討している。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や申し送り時に職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、職員は理念の意義や目的を理解して利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が何を学びたいのかを確認し、内容に応じた研修の参加を勧めている。また、内部研修にも取り入れている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会時に同業者との意見を聞き、馴染めもありお互い切磋琢磨している。グループホーム協議会を通じ、定期的に連絡を取り合い意見交換をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活で発した何気ない言葉を拾い上げ、その方の思いを理解できるようコミュニケーションを大切に笑顔がでる対応を心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク、アセスメント時にしっかりと要望を受け止めニーズを見極め信頼関係を築くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時の情報を把握し、多職種とも連携を取り必要に応じたサービスが行われるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持たれている能力を見極め、人生の先輩として教えて頂くことも。共に生活をしている者同士として支え合っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いの協力関係がないと介護は出来ない事を理解して頂くと共に、ご本人、ご家族の思いを大切にしながら望む生活が送れるように関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、地域の方々などの交流を続けられるように声掛けし、今までの生活の継続ができる様に支援している。	コロナ対策以前は、利用者の家族や友人、知人の面会も多く、馴染みの場所へ買い物に出かけたり、美容院に行く等、利用者がこれまでに築いてきた人間関係や地域社会との関わりが途切れないように努めてきた。コロナ禍の中で中断していたが、新型コロナウイルス感染症「5類」移行に伴い、地域との交流や外出の支援に取り組むことを検討している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操やレクの時間には参加して頂き、楽しい時間を共有し仲良く過ごすことが出来る様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に立ち寄って頂き、相談を受けたりして出来ることは支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを大切に無理強いはない。ただし、どうして良いか分からないときなどの表情、行動を把握しながら支援している。また、その都度職員間で情報共有し、どのように支援するべきか考えている。	職員は、ホームの中の日常会話から、利用者の希望や意向を聴き取り、家族と相談しながら実現に向けて取り組んでいる。また、意向表出が難しい利用者には職員間で話し合い、職員が寄り添い優しく話しかけ、利用者の表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の思いと本音の部分が食い違いがある時もある。ご本人の生活歴も大切に、探し得た情報を職員間で情報共有しご本人にあった対応を心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴に準ずるところもある。心身の状態を見極め体調管理、精神状況を細かく分析してその場面に合った対応をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、または担当者会議の時に支援内容と経過について話し合い、評価している。	職員は、家族の意見や要望を聞き取り、ミーティング、又は担当者会議で利用者の現状と支援内容、経過について話し合い、その結果を踏まえて利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録などで振り返りながら職員間で情報共有し計画を見直している。申し送り等を活用し細かいことも職員間で情報共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の情報を共有できるようにしている。生活上での言動や日頃の様子、ご家族との会話の中での内容などをニーズに反映している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集まりや行事への参加を通じ交流を図っていたが、コロナの影響で参加はできなかった。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人やご家族の希望を伺い、馴染みのある、かかりつけ医の受診をしえんしているが、ご本人の重度化などにより受診の負担も考慮し往診へ切り替えている。また、重度化、看取り対応の方に関する対応では医療、ご家族、施設の連携が取れる様に環境を整えている。	入居前に利用者や家族と話し合い、馴染みのかかりつけ医の受診を家族と協力して行っているが、利用者の重度化が進むと、利用者や家族の承諾を得て、往診できる協力医療機関に変更し、24時間安心の医療体制を整えている。また、主治医と訪問看護師(毎週訪問)介護職員が常に連携を図り、利用者が安心して適切な医療を受けられる支援に取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との24時間体制で何かあればすぐに相談、報告できる体制は整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態は定期的に医療機関へ連絡し状態の把握をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、ご家族からの要望を聞き取り主治医の意見を聞きながら今後の介護の方針を確認している。看取りケアも行っており、施設全体が看取りケアを身近な物に感じている。また、看取りケア後の看取りの振り返りを行い、反省点、良かったことを職員、多職種で意見を出し、次の看取りケアに活かすことが出来ている。	契約時に、重度化や終末期に向けたホームの方針について、利用者や家族に説明している。利用者の重度化が進むと、改めて家族の希望を聞き取り、主治医とも相談して方針を決定し、関係者で共有して希望に応じて看取り支援に取り組んでいる。年に2、3名の看取りを経験し、その都度振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し連絡体制を決めている。 定期的に勉強会や訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。 災害はいつ起こるか分からないので職員全体がきちんと対応できるようにしている。	非常災害に備えた自主防災訓練を定期的に行うことで、職員一人ひとりが避難誘導を体で覚え、いざという時に素早く対応できるように取り組んでいる。通報や初期消火、避難誘導を迅速に行い、利用者が安全に避難場所に避難できる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし優しい対応や声掛けでプライドや羞恥心に配慮している。個人情報の記録の保管や職員の守秘義務については職員に説明し周知している。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護サービスについて、職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮して、利用者が安心して穏やかに暮らせるホームを目指している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活背景を理解し、押し付けではなく意欲が出せるよう声掛けを行い、意思の確認を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意欲の低下がみられる中、体を動かすことは積極的に行い、そのほかはご本人のお好きなように過ごしていただくようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に一日のメリハリでおしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を引き出しながら、食事の盛り付けや後片付けなどをして頂き、季節ごとの梅干しや、らっきょう漬けを作って楽しんでいる。また、毎月調理レクを行い調理を楽しんで頂いている。	ホームの畑で収穫した新鮮な野菜を使って職員が作る、家庭的で美味しい料理を提供し、利用者の能力に合わせて、下拵えや味付け、盛り付け、後片付け等と一緒にしている。季節毎に梅干しやラッキョウ漬け等を作ったり、土用の丑の日にはうな井、皆で作るお好み焼き、中庭にテーブルを出して外で食べる等、「食」を楽しめるよう、力を入れて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の症状に応じた食事を提供するように心がけている。また、嚥下状態に応じた食事形態の食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを定着している。ご自身で出来ない方は、訪問歯科を利用して口腔内の清潔保持に努め、病気の予防に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに応じた支援をしている。トイレでの自立した排泄が出来、常に清潔が維持できるように努めている。	職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、利用者が重度化しても職員2人体制で、失敗の少ない排泄支援に取り組んでいる。また、立位が保てるように下肢筋力を鍛える生活リハビリを取り入れ、利用者トイレで排泄出来るよう支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便があるよう心掛けている。運動不足もあり緩下剤に頼る方もおられるが、水分補給を積極的に行うように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の対応であるが、状況に応じて回数を増やしたりなど行っている。	利用者の体調や希望に配慮して入浴が出来るように支援し、週3回を基本としているが毎日入ることも可能である。仲の良い利用者同士と一緒に入ることもあり、入浴が楽しいものになるよう支援している。重度化の利用者には、状況に応じてシャワー浴や清拭で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時や休息の時間は、個々のペースで過ごせるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋を綴じ、全体が把握できるように保管している。また、内服薬が変わったことによる体調の変化などは記録に残し、主治医へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に得意な事もあるので、それを活かしながら生活の楽しみして頂いている。また、生活リハビリなどを通じ、慣れない作業などにも挑戦したりする方もおられる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、周辺を散歩したりしている。以前は買い物などにも行っていたが、コロナ禍であった為、実践できていない。	コロナ対策以前は、地域の祭りや活動に利用者と職員が一緒に出かけたり、家族の協力を得て外食や買い物に出かけ、利用者の楽しみに繋がる外出の支援に取り組んでいたが、コロナ禍の中で自粛している。気候の良い日には、広い敷地を散歩したり、畑の手入れ、収穫等を利用者と一緒に行い、職員が工夫しながら利用者の気分転換に繋げている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などはご自分でお金を使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の自由にして頂いている。声が聞きたいときはいつでも対応し、ご家族にも事前に相談しご納得頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備している。季節ごとの壁画や書道をして頂き、掲示している。音や照明、温度や湿度、換気に注意している。	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームでは、仲の良い利用者同士が談笑したり、職員とゲームや作品作りを楽しんでいる。室内は清掃が行き届き、音や照明、温度や湿度、換気に注意し、清潔で明るい共用空間である。玄関や壁に利用者や職員による季節毎の作品が掲示され、生花を飾り、季節感あふれる雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決められたところが安心のようでもあるが、時には各自の居室などでくつろいでおられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の必需品や好みの物を活かし、それぞれの好みのお部屋になっている。	利用者が長年使い慣れた箆笥やベッド等の家具や仏壇、家族の写真、生活必需品を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、その人らしい環境の中で、利用者が安心して暮らせるよう支援している。清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具も利用し、安全に自立した生活ができるように支援している。		